

石山つ子

那加第一小学校
学校だより
令和元年7月4日
No. 4

6年生の皆さん、いつもありがとうございます！

「最高学年として・・・」「全校のお手本となるように・・・」「学校の顔として・・・」

どこの小学校においても、6年生に進級するとこんな言葉で子どもたちに期待がかけられます。こういう言葉は確かに6年生にとって大きな励みにはなりますが、時としてプレッシャーとして働いてしまうこともあります。本校の6年生も教職員や下級生、あるいはご家族の方々から様々な期待を寄せられながら最高学年としてのスタートを切りました。そういう中での4月の入学式とPTA総会で発表した迫力のある歌声は、「さすが合唱自慢の那加一小の6年生」というすばらしい姿でした。

ところで、この学校へ来て感心したことのひとつを紹介します。4月が始まって以来、登校してから朝の会が始まるまでの間、6年生の有志の子どもたちが、1年生の兄弟学級の教室にやって来ます。給食の配膳や掃除の手伝いなどで6年生が1年生の教室を訪れる事はよく見かけるのですが、登校直後にこういう光景を目にする事はあまりありません。眺めていると、この6年生の子どもたちは、登校してきた1年生の子どもがランドセルの中身を机の引き出しの中に入れるお手伝いをしているのです。入学間もない1年生にとっては、数々の学用品を引き出しの中にしまうのもひと苦労ですから、1年生の学級担任にとっても助かります。時には、登校途中にころんで膝をすりむいた1年生を保健室へ連れて行く6年生もいます。こんなふうに上級生が下級生を思いやる行動がごく自然にできる姿は実に微笑ましいものです。

先月の13、14日と6年生の子どもたちと一緒に修学旅行へ出かけてきました。出発集会の時には、「少し元気がないかなあ」と心配しましたが、バスに乗車してバスレクが始まつた途端エンジンが全開しました。私は2日間、3組のバスに同乗させてもらいましたが、バスレクの進め方や盛り上げ方は実にお見事でした。グループ毎に出し物を決めて順序よく進めていました。特に感心したことは、学級みんなの仲がとてもよいことです。全員がお互いを名前に「さん」を付けて呼び合っていました。また、誰かが失敗しても責め立てることはせず、むしろそういう仲間をかばったり、励ましたりするということが自然に、当たり前のようにできていました。また、こういう姿は3組に限ったことではなく、学年の様々な活動の場で同じような光景を目にしました。爽やかな、温かい雰囲気に包まれた中で居心地のよい2日間を過ごすことができました。翌週に出かけた5年生の宿泊研修においても、同じような居心地のよさを感じました。きっと保護者の皆様が、日頃からお子さんに対して、温かく思いやりの心をもって接しておられることが、こういう子どもたちの姿につながっているのだと思います。

6年生とは言え、時には厳しく叱られる場面もあります。ところが、本校の子どもたちには、厳しい指導も謙虚に受け止められる素直さがあります。この謙虚さ、素直さがきっとこれから大きな成長につながるはずです。これからは小学校生活最後の運動会に向けての取組が始まります。

どうか私たちの自慢である6年生の活躍に皆様の温かいご声援をよろしくお願ひいたします。

＜校長 兼松 直人＞